

第13回 TEPIA ハイテク・ビデオコンクール最優秀作品賞・日本経済団体連合会会長賞 第40回日本産業映画・ビデオ・コンクール学術研究部門賞・日本産業映画ビデオ賞

映画は、細胞培養、顕微鏡撮影、MR映像などの技術を駆使して、骨髓の世界の解析に新しい光を当てようと試みたものである。骨髓の中で、造血幹細胞がどこにいて、どのようにして造血を行っているか、骨髓の中の造血幹細胞の「すみか」を探る。

■協力

岡部 勝（大阪大学遺伝情報実験施設遺伝子組換え研究分野）／小林麻己人 西川恵三（筑波大学先端学際領域研究センター基礎医学系）／平家俊男 吉本桃子 平松英文 塩田光隆（京都大学大学院医学研究科発達小児科学）／大根田 修 鈴木教郎（筑波大学先端学際領域研究センター基礎医学系）／平敷淳子 天沼誠（埼玉医科大学放射線医学教室）／成田政広（埼玉医科大学附属病院中央放射線部）／相澤 信（日本大学医学部解剖学教室）／岡田保典（慶應義塾大学医学部病理学教室）／永井俊弘（慶應義塾大学医学部電子顕微鏡研究室）／山崎一人（東京都済生会中央病院病理科）



すべての細胞のもとになる幹細胞は、移植医療や再生医学の先端医学領域で大きな役割を果たしている。この幹細胞の「すみか」である骨髓は、「骨の髄から」という言葉通り、古来より骨髓は体のもっとも奥深く鎮座する神秘的な組織と考えられてきた。

近年、幹細胞、再生医学研究の発展に伴い、骨髓は、血液細胞のみならず肺、肝臓、腸管などの再生にも寄与する幹細胞のすみかとして、骨髓の役割も注目されている。クラゲの発光遺伝子を組み込んだ蛍光マウスの幹細胞を移植されたマウスの骨髓の観察、また造血幹細胞の指標ともいえる GATA-2 という遺伝子が発現すると光る細胞を使って、骨髓の内部で追い求めた映像は、骨髓の中の造血幹細胞の「すみか」に迫る。

記録

ビデオ
カラー／19分
日・英・中国語版

■企画

中外製薬株式会社

■監修

平嶋邦猛（埼玉医科大学名誉教授）
浅野茂隆（東京大学医科学研究所先端医療研究センター長附属病院院長）
中畑龍俊（京都大学大学院医学研究科発達小児科学教授）
中内啓光（筑波大学基礎医学系免疫学東京大学医科学研究所ヒト疾患モデル研究センター幹細胞治療研究分野教授）
山本雅之（筑波大学先端学際領域研究センター基礎医学系教授）

スタッフ

■製作

花崎 哲

■脚本・演出

森 吉美

■演出助手

米村栄子

高崎理香 栗原龍一

■顕微鏡撮影

鈴木博之

■実景撮影

今野聖輝

■実景照明

佐藤大和 山屋恵司

■CG

酒見晃一 菊池友恵

■選曲

徳永由紀子

■編集・録音

アオイスタジオ

■解説

窪田 等